

適期播種で収量を確保！ 秋まき硬質小麦「つるきち」の栽培法

概要 Abstract

新品種「つるきち」は「キタノカオリ」の低アミノ小麦が発生しやすいという欠点を改良した、中華めん用硬質秋まき小麦です。

「つるきち」は、耐倒伏性に優れますが、莖数が少なく推移する特性をもっています（図1）。このため、「つるきち」の特性に合わせた栽培方法を設定する必要があります。そこで、「つるきち」の播種期、播種量、目標越冬前莖数、窒素施肥法など基本的な栽培指針を作成しました（表1）。



写真：「つるきち」の穂
穂数が少なく、穂が大きく莖が丈夫

成果 Results

表1 「つるきち」の栽培指針

項目	指針	備考
播種期	越冬前積算気温 道東 : 470℃ (5葉) 道央道北 : 580℃ (6葉)	・道東では、穂数と子実重の確保のためには、より早い時期の播種が有効
播種量	255粒/m ² (千粒重43gの場合 11kg/10a)	・登熟期間が短くなる地域、穂数が確保しづらい地域（道央道北の一部を想定）では、340粒/m ² に増加することで子実重と穂数が増加
目標穂数 莖数	穂数：500本/m ² 以上 越冬前莖数： 道東 1100本/m ² 以上 道央道北 1300本/m ² 以上	・穂数確保のためには適期播種が重要。
窒素施肥	「キタノカオリ」施肥法 (H16指導参考事項) に準じる	・子実タンパクが上がりすぎる圃場では止葉期以降の追肥量を減らす。【表2】

※越冬前積算気温：日平均気温3℃以上の日の日平均気温を播種日から11月15日まで積算

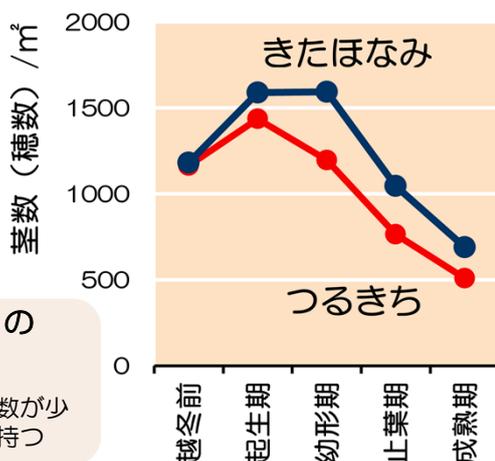


図1 「つるきち」の莖数の推移

「つるきち」は、莖数が少なく推移する特性を持つ

表2 「キタノカオリ」施肥法と「つるきち」での変更点

地域	窒素施肥量 (kgN/10a)				備考
	基肥	起生期	幼形期	止葉期 開花期以降	
道央道北	4	起生期6kgに加え、幼穂形成期までに3kg増肥	9	3 0	子実タンパクが高いと予想される圃場
			3	葉面3 0	
道東	4	8	5	0	子実タンパクが高いと予想される圃場
			幼穂形成期を中心に止葉期までに配分	葉面3	

注) ピンクの網かけは「つるきち」での変更点。葉面は尿素の葉面散布。

普及 Dissemination

全道の「つるきち」の栽培において活用できます

連絡先 Contact

北見農業試験場 研究部 麦類グループ
0157-47-3809 kitami-agri@hro.or.jp